

# 農業



令和6年9月号

会誌 No. 1721

## 目次

### 巻頭言

GREEN × EXPO 2027の役割・花から農へ……………進士五十八 3

### 論壇

農業と環境, 持続可能性ということ……………長谷部 亮 4

### 農業懇話会

化学農薬に依存しない害虫被害ゼロ農業の実現

—先端的な物理手法と未利用の生物機能を駆使して—……………日本 典秀 6

### 食を楽しむ

フルーツカッティングはエコの応援団……………新谷 睦子 21

### 研究の最前線

豚熱の発生動向と対策

—現在わが国において流行している豚熱ウイルスの性状—

……………深井 克彦 22

### 農業・農村の現場から

独自の農法の確立や6次産業化による100年続く農園のさらなる挑戦

—茨城県銚田市 深作農園の取り組み—……………深作 勝己 32

### 世界の農業は今

パレスチナにおける農業とオリーブ産業の育成……………柏木 健一 38

**私の経営と志**

愛媛県愛南町で次世代につなぐカンキツ栽培を目指す

—全てのご縁を大切に—……………松田 拓也 44

**農家の気持ち**

私たちに託してほしい……………佐藤 梨紗 46

**農政情報**

…………… 47

編集部から…………… 47

大日本農会だより…………… 48

**表紙写真説明：シリーズ日本農業遺産**

**たまねぎ小屋と水稲（兵庫県南あわじ市）**

南あわじ地域では、瀬戸内という「水資源に乏しい地域」で、かつ農地として利用できる土地が少ない「島という環境」で効率的な水利用や資源循環などの伝統的な農業システムが発達してきました。2021年2月に「南あわじにおける水稲・たまねぎ・畜産の生産循環システム」として、日本農業遺産に認定されました。

ため池や河川、3,000kmを超える水路網等の表層水と、湧水や井戸水等の地下水を組み合わせたかんがいシステムを構築するとともに、「田主」と呼ばれる伝統的な水利組織が水路等の管理運用を担い、限られた水源の確保に努めてきました。

また、かんがいシステムを基盤とし、限られた農地を有効活用するため、稲刈り後の播種と田植え前の収穫に適応するタマネギの品種改良と栽培技術の開発を重ね、稲刈り後の水田でタマネギを栽培する「淡路発祥の二毛作」が確立されています。写真は収穫したタマネギを乾燥・貯蔵するための「たまねぎ小屋」です。

水田による水稲栽培のかん水はタマネギの連作障害の改善につながるだけでなく、稲わらは家畜の餌になり、牛ふんは堆肥としてほ場に還元される耕畜連携・循環システムにより、南あわじ地域はタマネギの一大産地となっています。

（写真および文：南あわじ市農林振興課 濟藤 貴志）